

## 会 議 録

会議の名称	第11回小金井市公立保育園運営協議会次第	
事務局	子ども家庭部保育課	
開催日時	平成26年10月15日(水) 午後7時32分～9時03分	
開催場所	小金井市役所第二庁舎 801会議室	
出席者	五園連	東海林一基 委員 (くりのみ保育園) 本多由美子 委員 (くりのみ保育園) 宮田 優子 委員 (けやき保育園) 岡崎 英 委員 (けやき保育園) 八下田友恵 委員 (小金井保育園) 市川 朋子 委員 (さくら保育園) 小泉 未紀 委員 (さくら保育園) 三橋 誠 委員 (わかたけ保育園)
	市	川村 久恵 委員 (子ども家庭部長) 鈴木 遵矢 委員 (保育課長) 諏訪 知恵 委員 (保育課長補佐兼保育係長) 前島 美和 委員 (くりのみ保育園園長) 海野 仁子 委員 (けやき保育園園長) 福澤 永子 委員 (小金井保育園園長) 福野 敬子 委員 (さくら保育園園長) 杉山 久子 委員 (わかたけ保育園園長)
欠席者	五園連	寺地 理奈 委員 (小金井保育園) 片桐 由輝 委員 (わかたけ保育園)
傍聴の可否	(可) ・ 一部不可 ・ 不可	
傍聴者数	16人	
会議次第	1 開会 2 議事 (1)第10回会議録の確認について (2)保育業務の総合的な見直しについて (3)現場見学について (4)保育の質について ア 公立保育園の保育内容 (乳児の保育 環境づくり (室内遊び)) (5)アンケート調査について (6)当面の課題について (7)次回日程の確認	
発言内容・ 発言者名 (主な)	別紙のとおり	

発言要旨)	
会議結果	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1)第10回会議録の確認について 会議録の確認を行い、公開することとした。</p> <p>(2)保育業務の総合的な見直しについて 次回以降の運営協議会に質疑を送ることとした。</p> <p>(3)現場見学について 資料説明後、質疑を行った。</p> <p>(4)保育の質について ア 公立保育園の保育内容 (乳児の保育 環境づくり (室内遊び)) 資料説明後、質疑を行った。</p> <p>(5)アンケート調査について 資料説明後、質疑を行った。</p> <p>(6)当面の課題について 職員募集配置状況の報告がなされ、公立保育園父母の会意見・要望等の説明がなされた。</p> <p>(7)次回日程の確認 平成26年11月5日(水)19時30分から開催することとした。</p>
提出資料	<p>1 小金井市公立保育園運営協議会視察記録(資料46)</p> <p>2 公立保育園の保育内容 (乳児の保育 環境づくり (室内遊び))(資料47)</p> <p>3 平成26年度公立保育園の運営に関するアンケート調査集計(資料48)</p> <p>4 職員募集配置状況(資料49)</p> <p>5 平成26年度 小金井市公立保育園父母の会意見・要望等(資料50)</p>
その他	なし

第11回小金井市公立保育園運営協議会 会議録

平成26年10月15日

開 会

○川村委員長　それでは、ただいまから小金井市公立保育園運営協議会の会議を開会いたします。市の都合で、9月30日に開催予定をしていました会議を、本日に延期にさせていただきます。申しわけございませんでした。それでは、議事に従って進行いたします。

初めに、議事の(1)第10回会議録の確認についてを議題といたします。第10回の会議録については、お配りいたしました内容で決定することにご異議ございませんか。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

○川村委員長　ご異議ございませんので、第10回会議録についてはお配りした内容で決定いたしました。

次に、議事の(2)保育業務の総合的な見直しについてを議題といたしますが、本日は特段の資料が出されていないので、次回の会議に送ることとしたいと思います。

○岡崎委員　ごめんなさい、その件いいですか。1点確認したいのですが、私の記憶では5月の会議で、五園連側からのカウンターが出ていると思いますが、それに対しての詳細をお出しただけという認識をしております。

もう4カ月半たっていますが、その内容が、今までやってきた毎月の議事に反映されているからこそ出ていないのか、それとも改めて詳細の内容が出てくるのかという立てつけだけ確認したいので、ずっと聞こうと思っていたのですが。

○鈴木委員　保育課長です。申しわけございません。ご指摘のように、1回こちらで回答を出した部分につきまして、委員の皆さんからご意見をいただいた部分について、またお返ししますよとお約束してございます。

そこまでお出しできる内容までまとまり切っていないことから、こちらで準備もしているところですが、もうしばらくお待ちいただきたいと思います。

○岡崎委員　準備中という認識でよろしいということですね。

○鈴木委員　はい。

○岡崎委員　はい、わかりました。

○川村委員長 ほかにございませんか。

それでは次に、(3)現場見学についてを議題といたします。

○鈴木委員 保育課長です。座ったまま失礼します。

前回の運営協議会において、たたき台として形を進めさせていただきました。その後、視察した際に聴取した内容等を4番の概要に記載して、それぞれ井の頭保育園、それから国分寺市の状況について記載しているところです。

それから、めくっていただいて最後の2枚の部分ですが、各委員会の意見、感想として前回の会議の中で発言があった内容を、それぞれの井の頭保育園、国分寺市の部分、こくぶんじ保育園、それから保育内容、施設、給食その他という形で分類させていただきました。

内容をご確認いただきまして、何かございましたらご指摘等よろしくお願いいたします。以上です。

○三橋委員長 今まで委員の方から出てきた意見、ないしは質問の中で、これについては確認しておいたほうがいいのか、ここについてはというところについては、いま一度、発言なりコメントをいただければと思います。

何か今、ここでご意見いただいてもと思いますし、あるいは、この後、議論していく中で、視察した結果などを含めてコメントいただいてもと思います。

いずれにしても今回、まだ国分寺と井の頭保育園、大きく2つ、2カ所行っただけだったので、またいろいろ議論する中で、もう少し違った観点ないしは違った場所を見たという話も出てくると思いますので、そういう場合は、都度、対応していきたいと思っています。

○川村委員長 ほかに何かご質疑ございますか。

それでは何かございましたら事務局までご連絡ください。

それでは次に、(4)保育の質を議題といたします。これは海野委員。

○海野委員 保育の質について、けやきの海野と、くりのみの前島と2人でお話しさせていただきたいと思います。

まず保育の質についてですが、保育の質はどのように捉えることができるでしょうか。

何かを捉えて評価しようとするときに、そこには数値化できるものできないものがあると思います。

数値化できるものとしては、子どもに対する職員の配置数や園庭面積、保育室の面積、

あるいは、適切な調査等による保護者の満足度でしょう。これらは、わかりやすく比較しやすいため評価の指標としても利用されやすいものです。

一方、数値化できないものはその捉え方にもさまざまな視点があり、評価基準を明確に提示したり、統一したりすることが難しいと言われています。

現在、運協では、公立保育園の保育内容、保育の質の評価が協議事項として取り上げられています。数値化しがたい質の部分をどのように把握し、どのように評価していくのが課題になると考え、小金井の公立保育園の私たちが大切にしていること、具体的な保育の中身をお話ししていくことで、保育の質についての共通認識をこの場で持つことができればよいと考え、前回は、皆さんにイメージしてもらいやすい食事についてお話しさせていただきました。

今回は、乳児の保育についてさまざまな工夫を凝らしている環境づくりの中から室内遊びに焦点を当て、何を狙いとして保育を行っているのかを知っていただき、続けて具体的な事例を挙げながら、一人一人を大切にする保育の実践についてご紹介したいと思います。

なお、今回は幼児の保育について5歳児のお泊まり会の取り組みに焦点を当て、年長児で獲得したい力や、私たちが考えるこんな子どもに育ててほしいという理想の子ども像についてお話ししたいと考えております。

次回以降、スケジュールとして時間が許すようでしたら、障がい児保育や支援が必要な家庭の対応など具体的な事例の取り組みを知っていただくことで、さらに保育の質について確認していければよいと考えています。

では、きょうのテーマである乳児の保育の環境づくり、室内遊びについてですが、先日、国分寺市内の保育園を視察したときに、遊びのコーナーがないという感想が出ていたので、今回はその点に着目してお話ししたいと思います。

この遊びのコーナーがないということは、国分寺市に限ったことではなくて、近隣の自治体の保育園、公立保育園についても遊びのコーナーがないところは多々あると聞いています。

実は、小金井でも30年ほど前は、どの部屋にもコーナーはほとんど、ちょっとしかなかったのです。保育室にコーナーがないと、その分広々として子どもの利用できるスペースが多いように見えます。

保育者からは見通しもよくて、子どもが棚などにぶつかる心配もなくて、清掃もしや

すいなど、それなりの利点があると感じます。おもちゃはかごや箱にひとまとめに収納しておいて、遊ぶときに保育者が「さあ、次はこれで遊びましょう」という感じで取り出して、子どもたちはかごをがっつと逆さまにして中身をあけて、そこに皆が集まってそこで遊びが始まるというのが通常の様子でした。

また、当時は外でのびのびと遊ばせることに重点が置いてあり、朝8時になると幼児クラスは園庭に出て遊ぶのが日課で、ともすると、2歳児クラスの子どもたちも同様にしていることがありました。

そうした中、室内遊びの分析におきまして、乳児、幼児に共通して次のような子どもたちの姿が指摘されるようになりました。

保育室を走り回る、遊びが見つからずうろろしている、遊びに集中できない、長続きしない、玩具を投げる、乱雑に扱う、大人が相手をしないと遊べない、子ども同士のトラブルが多いなどです。

こうした姿は、よりよい保育を目指していく上でのさまざまな課題の1つであり、各保育園での共通の課題でもありました。課題の解決のために、それぞれの園で取り組んできたことは、乳幼児の発達の理解を深めるための学習、遊びや環境づくり、おもちゃに関する学習、乳児保育に関する学習などです。

学習の深め方としては、職員全体の打ち合わせ会はもちろんのことですが、五園の代表が集まり継続的に行われる学習会、A学習会、B学習会と私たちは呼んでいますが、これらや、主任会が主催する研修会、自主研修として参加する各種の研修会などです。

実績を積んでいる保育園の見学会へも積極的に出かけ、新しい保育のスタイルや新しい保育論、進んでいる保育論などの情報収集などにも努めました。

それらと並行して自分たちの保育の見直しも行いました。中身としては保育目標、日課、保育者のかかわり方、遊びの質、遊びの環境の見直しなどです。日々の保育の改善を行いながら、毎年、毎年実践を積み上げました。

その結果の1つですが、今では小金井市の公立保育園は全ての園で遊びのコーナーを設けています。室内遊びの課題に対応するために生み出され、今や当たり前となっている遊びのコーナーですが、当初の課題解決によって完了したものではなくて、今も恒常的な狙いとして共通認識し、取り組んでいます。

その狙いが、資料47の遊びのコーナーの狙いになります。ここに7項目挙げてあります。後でゆっくりお読みください。

要約すると、どの子にとっても興味関心のあるおもしろいおもちゃがいつでも手の届くところにいっぱいあって、遊びたいときに安心して思い切り遊べるように遊びのコーナーをつくって、子どもたちの自分でという意欲を初めとする主体性などの心の発達、体の発達といったものを育てていく狙いがここに書かれています。

あと、コーナーをつくるに当たっての配慮事項なども細々といろいろあります。それが2番目になります。コーナーをつくるに当たっての配慮事項で、17項目について挙げてあります。これについては、写真で紹介しながら要点をお話ししますので、後で目を通してください。

これから小金井保育園の2歳児クラスと、けやき保育園の0歳児クラスのお部屋のコーナーを紹介します。資料47の一番後ろのところにお部屋のコーナーが出ています。縮尺の関係で同じような大きさになっていますが、2歳児室はとても広いです。

小金井保育園の2歳児室は16名の子どもたちがいます。ここの長方形の形に番号が打ってあるところは、全部おもちゃ棚になっています。ここの図にありますように、おもちゃ棚を点在させて、そこでここに出ている点で囲まれてというような遊びが展開されるのをねらって、お部屋づくりができています。

2歳児コーナーについてはかなり細かく、たくさんの種類の遊びが展開できるように設定されています。分散して子どもたちが遊べるようになっています。

上側がけやきの0歳児室のこうめ組。けやき保育園は12人の子どもたちが0歳にいますが、独立して保育室が2つ、6人ずつの保育室があります。その一方です。実際はもうちょっと、2歳児クラスに比べると小さいですが、こちらはおもちゃ棚が壁に沿って設置してあります。

これは9月のお部屋の状況ですが、まだハイハイをしたり、よちよち歩きだったりするお友達がいっぱいなので、できるだけハイハイやよちよち歩きがお部屋の中でできるようにということで、広くスペースをとるような形の配置をしています。

今年のけやきの0歳はこういうような形でやっていますが、さくら保育園などは3月に待機児対策で0歳のお子さんが2名増員されていますが、ごめんなさい、5月でした。

4月生まれの子と、3月生まれの子と約1年月例差があるお子さんが同じ保育室にいるので、けやきのような形ではなくて、ちょっと区切りをつける、コロンと寝て過ごす赤ちゃんとよく動ける赤ちゃんというふうに、おもちゃ棚とか柵とかでちょっと区切りをつけるようにしている0歳児室もあります。

ということで、この図を見ながら2歳児室の実際の遊びのコーナーをご紹介しますと思いますが、写真がせっかくありますが、子どもたちのいきいきとした顔があつてこそその保育園の姿ですが、この場に顔が写せないのも、こういう誰もいない感じの写真と、あと顔が写られないような写真になっているので、ちょっと味気ないです。実際の感じと大分違いますが、写真1が小金井保育園の2歳児室です。全体を写しています。

写真2が絵本のコーナーです。絵本のコーナーが2歳児室の1番のところになります。2歳児室だと乳児も幼児もそうですが、絵本の背表紙ではなくて、表表紙がしっかり見えることがとても大事で、そういうような設定をしていて、隣にベンチがあつて、そこでお座りして読めるような形になっています。

写真3が2番になって、井型ブロックのコーナーです。写真4は井型ブロックで遊んでいる子どもたちですが、これは立体駐車場みたいな駐車場をつくっています。井型ブロックは、ともすると、戦いごっここの材料になってしまつて、刀とか剣とかベルトとかというふうになってしまいがちで、なかなか難しいおもちゃだったりしますが、これも乳児期からこういうふう遊ぶんだよということを丁寧に教えていくと、ごっこ遊びの道具だてになるのです。

写真5は、小金井保育園ではお祭りのときにラッセラーという荒馬踊りを年長さんがやっています。その荒馬のお馬さんの形。そういう自分たちのごっこ遊びの道具を2歳児はつくり出しているのです。

それから、こちらは阿波踊りのお囃子隊が小金井保育園ではお祭りのときに来ますが、そのお囃子の太鼓を子どもたちがイメージしてつくっています。

写真6が3番のデュプロブロックです。デュプロというのは、世界観を子どもたちが構築していくのにすごく楽しいものです。

写真8が4番になります。積み木、木の動物、ミニカーの道路ところです。ここは、木片の積み木があつて木の動物がある。いろいろなおもちゃを組み合わせながら遊んでいるコーナーです。

写真10が5番の汽車、線路のところになっています。今、子どもたちが遊んでつくっていますが、これは結構つくるのが大変なんです。短い時間だとつくり上げたところで終わってしまいますが、続けて遊びたいということが多いようなおもちゃです。それをそのまま残しておくことを小金井保育園では、どこもやっていますが、小金井以外の保育園でもこういう形で、またお散歩から帰ってきたとか、お昼寝終わった後とか、また



次に遊べるように取っておいたりしています。

写真17が6番のおままごとコーナーで、秩序だって置いてありますが、ここに写真がありますが、おもちゃ棚の中にこんな感じでお片づけしてねみたい、そういうのが写真で貼ってあって、収まったときの棚の状況が写真で掲示してあります。

こういう細長いおもちゃとか、丸い小さいお手玉とか、こういうフィルムでつくってあるのとか、これがすごくいろいろなものに見立てられる小物という感じで、おままごとコーナーでは活躍しています。

写真14, 15は7番、8番いろいろな遊びに使える布、あとはお出かけごっこに使えるかばんとか、お人形のおふとんとか、あとはスカートだったりエプロンだったりというのが収まっています。

写真16は図にはないですが、ままごとコーナーの9番の裏側のところあたりにあります。こういうお人形さんがどういうふうに置かれているかはすごく大事で、大人がいつもどんなふうに扱っているかを子どもたちはよく見ていて、大人が丁寧に人形さんを遊びの以外の場面で丁寧に扱っているかがとても大事で、それが子どもたちに伝わっていきます。

写真17はおままごとの様子です。写真18は8番の棚の上に、夏の終わりの縁日ごっこの小物が出ています。こういうような形でおままごとコーナーのところの一角を使って、これは焼トウモロコシですね。こちらはたこ焼きですね。どこの保育園でもこういうような形で、夏の間は縁日ごっこなどを2歳児などはとても楽しんでいます。

ハケとか小物があって、これでソースを塗るとか醤油を塗るとか、道具を使って遊ぶことで、子どもたちはすごくごっこ遊びを大人の世界の再現で楽しんでいます。

写真19は机上遊びのコーナーで、食事コーナー、机上遊びがありますね。そのところのテーブルに、これはペグさしですが、これはこのぐらいの大きさのペグさしで、こちらはもっと小さい刺すところ。レベルが単純な、割とやりやすいものから、複雑なものといろいろ取りそろえてやるようになっていきます。

今までが2歳のところ。写真20がけやき保育園0歳児のこうめ組さんです。広々とハイハイができるような形にお部屋をつくっています。

写真21赤ちゃんのおもちゃです。カラフルで色どりよく、赤ちゃんの目に入ってきやすいようなはっきりした色のおもちゃが取りそろえられています。1つ1つ、ピューラックスで消毒をしたり、日光消毒をしたり、水洗いをしたり、口に入ってもいいように

衛生的に管理ができるようになっています。

この辺のものは、その棚の上にくっついていて、これも固定されていて遊べる、上から落ちてこないように遊べるようになっています。

写真22は、わらべ歌遊びに使ったりするふんわりした布です。この辺にあるものはさわって感触を楽しむもの、体洗いのたわしみたいなものがありますが、それも感覚を研ぎ澄ますようなものです。

写真23のこういう布のおもちゃ、さわって温かみのあるような布のおもちゃは日光消毒や洗濯をして管理をしています。

写真24は壁にある手づくりのおもちゃですが、こういうふうには壁を活用して、お部屋づくりをしています。この辺もオリジナルです。つかまり出すとか、やっと立てるような子どもたちが壁につたって出会うような場所です。

写真25も壁につけてある、壁を利用した、たわしなどは変な感じですが、こういうのもいろいろな感触を楽しんだりし、引っ張ったり音を出したりします。

写真26は大きな布が壁に貼ってありますが、ぼさぼさとした布とか、つるつるとしたものと、ざらざらした布とかを縫いつけてあります。それもこういうのも感触の遊びです。

写真27は手先の遊びで鍵などをつけてつくったおもちゃになります。壁についています。写真28もそうです。こっちを引っ張ると向こうが引っ込みます。ホースの上側からチェーンをシュッと入れるとストンと落ちてくるような遊びです。このあたりからは手づくりのおもちゃを紹介させていただきます。

写真29はわかたけの2歳です。ほかの保育園のおもちゃなども紹介させてもらっています。これも壁を利用して、これをめくるとワンちゃんが出てきたり、これを開けるとくだものが出てきたりというおもちゃです。

写真30は、けやきの1歳児室です。1歳児、2歳児の子どもたちは登るのが好きです。体が登る機能を発達させる時期なので登りたいのです。なので、登ると当然上からぴょんとジャンプしたくなるので、そういうのを「登ってはいけません」、「ジャンプしてはいけません」と言うのではなくて、環境としてそういうふうにしなくて、ほかのところに気持ちが向くように棚の上にごういったおもちゃを設置して、それで遊ぶ。「棚の上に登ってはいけません」と言うのではなくて、登らない環境をつくるということで設置しています。

写真31はわかたけの2歳児ですが、おもちゃ棚の上のところにふちが立ててあって、そこで立って線路をつくったり、木の動物で遊んだり、積み木をしたりしてもすぐ落ちないような感じで、ここも棚の上に登ったりしないでそばに立って、棚の上のもので遊ぶというふうに活用しています。

写真32, 33, 34から、少し木のおもちゃをしょうかいします。各園、どの園もよいものを子どもたちという共通した目標というか思いがあって、でも木のおもちゃはすごく高いので、ものすごい何年間もかかって、ちょっとずつちょっとずつ買い足して木のおもちゃをたくさん用意しています。使いこんでいるのでへりとか皆削れてしまっています。

写真35からは手づくりのおもちゃをご紹介します。これも職員の手づくりでのおもちゃというか、ぬいぐるみです。写真36もそうです。お人形があって、これは着せ替えられるようなお洋服があって、エプロンがあってとなっています。

写真37は繫げる遊びです。1歳とか2歳は、繫げるあそびはボタンをはめたり、マジックテープでとめたり、ホックをとめたり、ホックも小さいものや大きいものやいろいろな形のものがあって、そういったものをこんなバージョン、こんなバージョンという形で、いろいろに工夫して遊びが継続し、集中して手先が使えるように、いろいろなタイプのものをつくっています。これがごっこ遊びにいろいろ反映していきます。

写真38は穴落としですが、穴落としも細いものもあれば平らな薄っぺらものもあって、いろいろ工夫してつくっています。本当に、0歳、1歳、2歳の子どもたちは手先のそういう操作が発達するときなので、それが集中できるような遊びができるといいかなというところですよ。

写真39はおままごとの小物です。2カ所ホックがとめられますが、いろいろなお家、おままごとのお料理になったりとか、アイスになったり、それから餃子みたいになったりいろいろなふうに遊んでいます。

写真40も手先の遊びです。洗濯ばさみのいろいろなバージョンです。写真41はお部屋の中、コーナーのところに自然のものということで、けやき保育園が去年講師を呼んで、自然のものを使った環境づくりの実技講習会をして、ツルと松ぼっくりと羊毛で作り、お部屋の装飾になっています。

ということで説明させていただきました。ちょっとこの資料にあるのは順番が違うので、今のを参考にさせていただきたいと思います。

こうした遊びのコーナーとかおもちゃのこととかも、今お話ししたように、ここに17項目配慮事項が挙げてありますが、幾つもの狙いとか配慮というものから構成しています。そういうものを構成している保育計画に基づいて日々の保育は行われていて、遊びのコーナーもそれを構成する大切な1つなわけです。

たかが遊びのコーナーされど遊びのコーナーという感じで、保護者のお話の中で「保育士さんは子どもの遊びにただつき合っているだけとっていました」とおっしゃる方がいらっしゃったのですが、こういう保育計画について説明をさせていただくと、「ああ、そうだったのですか」と、そんなふうな狙いとか計画があるのは全然知りませんでしたというのが、でもお話を聞いてよくわかりましたというおっしゃっていただきました。

が、こうした遊びのコーナー1つとっても、そういう狙いや配慮計画に基づいたものだということを今日お伝えしたいなと思っていました。お伝えできたかなと思います。

今日は乳児の保育ということで、室内遊びの環境づくりに絞ってお話ししていますが、乳児の保育全体についても、資料にあります乳児の保育で大切にしていることということで6項目にまとめてあります。

文章化してあるものは、各園それぞれそれなりにありますが、大まかめこういうふうに認識しています。日々の保育はこの6項目、1番が一番大事だと思っています。一人一人の子どもを尊重し、大切にする。2番としては、大人との信頼関係を築き、安心して過ごす。3番、生活リズムを整え安定した過ごす。4番、遊びを通して心身の発達を促す。5番、清潔で安全、安らぎや温かみのある環境で過ごす。6番、家庭との連携を密にする。

こうしたことを共通認識にして、日々の保育、一人一人を大切にする保育はどういうふうに行われているかということで、その実践について事例を紹介したいと思います。では、お願いします。

○前島委員 資料の次のページですが、8ページの横書きになっているものですが、「乳児の一人一人を大切にする保育の実践から」で、各園事例を挙げてもらって4例ありますが、ここに書いてありますが、きょうは読ませていただきたいと思いますので、よろしく願います。

まず事例の1つ目。1歳児クラス「食事の時間が不安だったAちゃん」。

4月に入園してくる子どもは、新しい環境に不安を抱えながらスタートする姿がよく

見られます。そのような気持ちを受けとめつつ、保育園は楽しい場、安心できる場になるように私たちは努めています。

4月より入園してAちゃんは、新しい環境になれるのに時間がかかり、日中泣いて過ごすことが多い子でした。少しずつ遊びの時間も泣かずに過ごせるようになってきた反面、食事の時間になると途端に泣き出し、食事がとれない日々が続きました。保護者にお家での様子をうかがうと、食べるのは大好きとのことなので、少しずつでもAちゃんが安心して楽しく食事ができるようにと担任間で工夫していきました。

まず、なぜ食事の時間になると泣いてしまうのかと考えました。Aちゃんは大人の動きである出入りや入れ替わりなど、扉の音に敏感で、廊下を通る大人の姿が見えただけでも親御さんを思い出して泣いていました。それが原因の1つと考えて、廊下を背にした席に移動して大人の動きが見えにくい席にしました。

泣いて食べられないときは、安心できるように背中をさすって膝の上に座らせて食べてみたりもしました。食事コーナーに入るのも嫌がるので、気分を変えて窓側に机を用意して景色を見ながら食事をとることもしてみました。看護師がクラスに入って1対1でかわって食事をとって見ることもしてみました。少量ですが、いつもより食べてくれました。

さらに、隣のグループに座ってみたら食べられることもありました。基本的には、遊んでいるときは泣かずに過ごせるようになってきたので、遊びの流れのままスムーズに食事がとれるようにと、Aちゃんの好きなおもちゃを食事コーナーの椅子に座って遊んでいて、その席についたまま食事を始めたところ、泣かずに食べられたので、そのような繋がりを意識しながら食事に誘うよう心がけました。

食事の時間が不安という気持ちがあったと思われませんが、そのような気持ちが軽減されるように、日中の遊びの中でも同じ大人が意識をしてかわり、楽しい時間を過ごし、信頼関係を深められるようにしてきました。

このようなかわりの中で、少しずつ食事の時間の不安が軽減されていき、食べられるようになってきました。早食いになってしまったり、嫌いなものになるとエプロンを外してしまったりする姿もありましたが、まずはAちゃんにとって食事の時間が楽しいものになるようにと、食べられたことを認めてあげていくようにしていきました。時間はかかりましたが、だんだんとなれて今ではすっかり食事の時間が大好きになりました。

先ほど、海野さんが紹介した食事のコーナーのところの様子で、遊びのコーナーと分

かれていましたが、そこを想像していただくのは難しいと思いますが、思いながら考えていただけたらと思います。

次の事例の2が、2歳児クラスの「場面の切り替えが難しかったBちゃん」。

車や乗り物が大好きで、井型ブロックでの車づくり、ミニカー、三輪車などで遊ぶことが多いBちゃん。園庭から室内に入るとき、食事を食べるときなどのさまざまな場面の切り替え時に、遊びをやめられないでいることがよくありました。

生活の流れに乗ってもらいたい思いもあり、「ごはんの時間だからお部屋に行こう」などと誘ってみるものの、反応はなく遊び続けていました。無理やりやめるようにかかわることもありましたが、そうしてしまうと泣いて暴れてしまい、次の行動どころではなくなってしまうのでした。

この反応が続いたらBちゃんにより影響はないと考え、担当間で相談し、Bちゃんが切りのよいと思えるところまで遊びを見守るようにかかわりを変えることにしました。

「お友達と先にお部屋に行っているから三輪車が終わったらお部屋に来てね」、「ブロック完成したらごはん食べようね」などの声かけをし、その間にほかの子どもを誘ったりして時間を置くようにしていきました。

初めのころは、ある程度時間を置いてもまだまだ遊びたい気持ちが強く、遊びを中断できないでいましたが、Bちゃんのペース、Bちゃんの思いを尊重して、何日も何日も受け止められ続けられるように心がけていきました。

すると、次第に自分で遊びを終わりにできることがふえていき、日々の生活の流れに乗れるようになっていったのです。現在では、「まだ遊びたい」と泣いて嫌がる姿はほとんどなくなりました。

子ども一人一人の気持ちに寄り添い、子ども一人一人の気持ちに適切なかわりができるように日々心がけ、保育していきたいと思います。

次が事例3番目です。1歳児クラス「遊びを豊かにするための保育者の援助」。

乳児クラスでは一人遊びを十分に保証しながら、子どもたち一人一人のイメージを大切に、のびのび表現ができるようにしています。

一言でおうちごっこといっても、その遊びは一人一人違います。子どもたちが自分の家庭、生活、経験をそれぞれに表現し、再現して遊ぶので、おうちごっこではそれぞれが自分のしたこと、見たもの、食べたものの記憶を再現をしています。

同じコーナーの中でCちゃんは鍋にお手玉を大盛りに入れてスプーンで混ぜ、「ゴハ

ン、デキタヨ」と保育者やお友達に呼びかけ、お皿に取り分けています。保育者はCちゃんの好きな食べものや最近食べたものを思い浮かべて推測し、「カレーおいしそう」と言って受け取り、食べるまねをします。

すると、Cちゃんがうれしそうに「オカーリ？」と保育者に聞きます。まだはっきりとしない子どもの言葉を、その子の気持ちがかくじかれないよう、何と言っているのかを酌み取りながらのやりとりをしていきます。

また、Dちゃんはお弁当の容器中にチェーンリングを詰めて、蓋をしてバックに入れ、お出かけごっこを表現しようとしています。この遊びでは、保育者が子どもたちがどんな経験をして楽しみ、再現したいと思うかを考えて、玩具を保育に下ろしていくかを大切にしています。

1歳児クラスの子でも上に兄弟のいる子は、お弁当のうれしさ、持ち歩くことの楽しさを知っているので、保育者はお弁当の容器、それに入る食材となる玩具、容器を包める布、容器を入れて持ち歩けるバックなどを用意します。

そして、Dちゃんの最近の楽しい経験を踏まえて、「動物園、行こうか」と提案します。そして保育者がDちゃんの好きな食べものに見立てて、「たまごとトマトと一お肉一」と言ってお手玉を出してくると、Dちゃんもイメージが膨らんで、「オニクトー」と言ってお弁当づくりをします。「バスに乗るよ」と保育者が提供したクッションにDちゃんが座ると、「次は東小金井、東小金井」と保育者がアナウンスをし、体を揺らしたバスの揺れを表現します。

動物園に着くと、手を繋いで歩いて「キリンだ、おっきい」、「うさぎさん、いい子いい子」と動物ごとに反応を変えて、保育者もDちゃんと一緒に楽しみ共感し、空想の中で同じ体験をし、信頼関係をより深くし、Dちゃんもまた同じ保育者と遊びを共有したいと思うようになります。

こうして、適切に子どもの遊びを援助し、遊ぶ力を育てながら自分のイメージどおりにものをつくり上げることができる表現力が育つように、日々丁寧に子どもたちとかわわっています。

最後に、事例の4番目です。これも1歳児クラスで、「友達に噛みついてしまうEくん」の事例です。

自分の近くに友達が近づいてくると急に噛みついてしまうことがあるEくん。イライラしている様子の日が多いので、どのような対応をしていくか担任間で話し合いました。

大人とゆったり遊んでいるときは笑顔も多く落ち着いた様子だが、そこにほかの子が入ってきたり、周りでほかの子が騒いだりするとカーッとなくなってしまうこと、疲れていたり、眠いときには特に口が出やすいことなど、Eくんがイライラしやすい状況が見えてきました。

そこで、まずはEくんの好きな歌、チョウチョやぞうさんを歌ったり、触れ合い遊び「大根1本抜いてきて」、おなかをゴシゴシしたり、コチョコチョコくすぐったりはEくんが大好きです。そのようなスキンシップをたくさんとって、大人と安心して遊べるようにしていこうということにしました。

スキンシップをとることで、Eくんからはもっとコチョコチョコしてと要求や甘えたい気持ちが出てくるようになりました。そんな素直な気持ちに、できる限り応えていってあげたいと思い、対応を続けています。

以前なら、物や友達に当たってしまうような場面で「抱っこ」と大人に甘えてくることで落ち着ける姿も出てきました。大人とのかかわりをもっとしたいEくんですが、その気持ちを受け止めながら、大人を通して周りの子の存在も少しずつ受け入れ、いずれは友達になってほしいなと思っています。

「Fちゃんがおもちゃ貸してくれたよね、うれしいね」、「Gくんと一緒に遊んで楽しかったね」、そんな言葉がけを意識して伝えていきました。最初は友達が近くにいるだけで押してしまったりしていたEくんですが、最近は、「一緒だね」と友達とうれしそうに笑ったり、友達と手を繋いだり、泣いている子がいると頭をなでてくれたり、少しずつですが、そんな姿も出てきています。

園でのEくんの様子はノートだけでなく、お家の方と会ったときにお話をするようにし、同時にEくんのお家の様子や生活について聞くようにしています。筋力が弱く、疲れやすいEくんには十分な睡眠が必要なことや、甘えたい気持ちに伝えて満たしてあげることが必要なことなど、お家の方と大切なポイントを確認し合い、家庭と園とで今のEくんの姿を受け止め、向き合っているところです。

○海野委員

乳児の保育の中でとても大切にしている子どもの気持ちに寄り添う、思いを受け止める、そうしたことを日々丁寧に積み重ねていくような保育の実践を紹介させていただきました。こうしたことが初めにお話しした保育の質の数値化しにくい、できにくいものに当たるとは思いますが、きょうのお話を皆さんに聞いていただいて、そのあたりを言葉で共通認識できるといいかなと思っています。



ということで、きょうの私たちからの保育内容についての話を終わりにします。

○三橋委員長 ありがとうございます。事務的なところですが、この写真ですが、ぜひ番号を振っていただいて、先ほどこれはこれとは話でしたが、うまく事務局でこれは何番だとわかるように。

○海野委員 はい、できます。私のほうで、番号を振ればいいのですね。

○三橋委員長 番号振って、議事録ができたときに、これはこれとは言っているので、1番はとか、2番はという形にさせていただくと、多分読みやすくなると思いますので。すみません、言っておけばよかったですね。

○海野委員 はい、わかりました。

○三橋委員長 非常にわかりやすいと思います。

いろいろと感ずるところが、あるいは質問もあるかと思いますが…。僕からでよろしいですか。

まず、30年くらい前からこういうことをやられる中で、最近というか、何年前から始まったという話ですが、そのきっかけというか、課題を解決しようとする中でこういうやり方があるのではないかという話についてももう少し詳しく教えて下さい。

○海野委員 そうですね。ここ何年かというよりも、30年くらい前からちよつとずつ、ちよつとずつ保育の質を高める、遊びの環境を整えていくということで、そのときそのときの課題に対してどういうふうに、具体的に保育の中でどうしていくのかということを考えあって、環境をこういうふうにしよつとか、大人のかかわりをこういうふうにしよつということの積み重ねが今のこの形。

くりのみが、公立保育園で最初にできてから46年くらいたちますが、そういった常に子どもの姿から、大体私が一番古く、30年くらい前からなので私たちが把握しているのは、でも、そういった子どもの姿からより高いものをとということで、私たちにできることを職員の中で話し合いながらやってきて、その中には学習があったりとか、いろいろな話し合いがあったり、いろいろなところに勉強に行くということがあってここに来ていたことを、きょうはお伝えしたかったかなと思います。

その中には職員の中での話し合いが大きな比重を占めていて、平等な立場でいろいろな意見を出し合える職場の人間関係、環境が大きかったのではないかと、私は個人的には考えていますが、それとやはりいろいろ形での研修、より高めていこうという職員の中のモチベーションを、いつも高く持つことがすごく大きいのではないかと、個人的には

考えています。

○三橋委員長　ありがとうございます。完成形というのではないと思いますが、要は、毎日日々の中でちょっとずつ変わってくるという話だったと思いますが、そのところ、うまく言えないですが、課題とかいうのが時代なり、状況によって変わってくるということですよね。

○海野委員　そうですね。保育目標の見直しなども、社会の状況とか保育指針などが改定されていくとかいうことがきっかけになって、各園で話し合いをもって進めていくことと、5園の中で情報共有というか、それぞれ1園ですごく変わっていくのではなくて、5園の中で高め合っていくというところはあると思います。

学習会の中で、今、A学習会、B学習会と紹介しましたが、学習会の中で5園の各園の遊びのコーナーとか環境づくりを見て回って、また学習会の中で話し合うとか、それを各園で持ち帰ることとかいったことも、すごく保育の質を高めるというところで言うと、公立5園という関係はすごくよかったのではないと思っています。

○三橋委員長　学習会とかあるのは知っていますが、学習会みたいなものが5園間でもあったりとか、あるいは今言った保育指針とか保育目標とかを検討するとか、そういう意味では定期的というか、具体的にシステムになっているのですか。それとも、ある程度課題が出てきたところはやったりみたりになるのですか。

○海野委員　その学習会は毎年行われていて、テーマはその年その年によって、今まで年齢別の保育、乳児の保育、幼児の保育、5歳の保育、4歳の保育という年齢別のテーマであったり、乳児の遊びというテーマであったり、障がい児保育であったり、年齢別保育であったりというような、あとは主任会の中で保育要録などを検討したりとか、主査が集まって各園から代表が出て、主査が出て検討したりというような、いろいろな形でその年その年テーマを持っているということです。私だけ話していますが。

○三橋委員長　そういったところがうまくビジュアルになるといいですね。こういうことをやっていますというか、学習会をこういうふうに行っているとか、こういうふうな形がやっているとか。あるいは、今年の課題はこうとかみたいのがうまく父母に伝わるといいかなとは思ったりは今しました。あるいは、今ちょうどこういう課題があるとか。

○前島委員　どこかの資料で。

○三橋委員長　そうですね、そういった形で。多分クラス便りとかいうので、今年の保育目標はこうしますとか、園の目標はこうですみたいところは見たことあるなと思ったりしますが、そのところが、今おっしゃられた深いところから繋がっているのだというところまで

なかなか、さらっと見てしまうのですよね。

こういう形でまとまって話を聞くと、ここまで深いところを考えられてやっているのだなというのがわかるのですが、日々のお便りだとどうしてもそこまで理解ができていないかというところはあったりはするので、うまくそういったところが伝わるとういかなど、今個人的には思った次第ではあります。

○川村委員長 福野委員から資料でと発言がありました、何か出るのですか。資料でとおっしゃった。

○福野委員 さくら保育園の福野です。そういう要望があれば、つくるのは可能なので、準備することはできますが。

○三橋委員長 もちろんそういったものがあれば良いと思いますし、あるいはこういった協議会とか、第三者の目で系統的に小金井ではやっていますという整理もあってもいいかなど思ったりもするので。

○川村委員長 もし、可能であれば資料提出ということでお願いいたします。

○福野委員 はい。

○川村委員長 ほかに何かご質問等ありますか。

○小泉委員 さくら保育園の小泉です。きょうのお話を聞いて、コーナーがあるということで、30年かけて少しずつ今の形になってきたのだなというのがよくわかりましたが、そういうコーナーをつくることでいろいろな事例が出ていたと思いますが、

その事例の中で、子どものいろいろ困っていることや、つまずくところが少しずつ変わっていった経過が書かれていたと思いますが、コーナーがあることによってそういうことに繋がっていったということが、私も頭にちゃんと入っていないですが、事例3がコーナーのことが出てきていて、コーナーがあることで遊びが豊かにしていけるのだという話がありました、

いろいろなつまずきがある子たちとか、コーナーがあることで子どものがより育っていったのか、それとも以前からいろいろな支援はあったのでしょうか、どうなのかなど。

○海野委員 けやきの海野です。事例を紹介した4つの事例は、遊びのコーナーに直接関係しているというよりも乳児保育全般について、遊びのコーナーについては環境づくりの中の室内遊びの部分ということでご紹介させていただいて、そこでは区切って、乳児保育全体についての保育実践ということで、一人一人大切に保育ということで事例を4つ挙げさせていただきました。

どちらかという、最後の6項目で挙げさせてもらっている資料の中の、乳児の保育で大切にしていることということで、この項目としてはこういうふうに挙げているが、保育の中のどういう場面で、どんなふうになっているのというところの紹介です。

なので、遊びのコーナーでこうだということではなくて、一人一人の子どもを尊重して大切にすると1項目に挙げてありますが、思いをくみ取るとか、気持ちに寄り添うとか、一人一人を尊重するところが反映された実践報告かなと思っています。

よろしいでしょうか。

○三橋委員長 課題として挙げられたり、今のお話の中で、保育の質は何なのかということで、数値目標ではないもの、それは何なのかというところの理解は我々もすごい大事だと思えますし、今、回答のところは僕もなるほどなと思いました。

1個1個の課題、走り回ったりとか乱雑だとか、大人が遊ばないと子どもが遊べないとか、子ども同士のトラブルが多いとか、そういった課題は今自分の周りでみても、子どもたちにそういうところがあると思えるかなと。

何かにつけて、どうしてもすぐテレビとかゲームとかいう話になってしまう中で、ちゃんと子どもたちが自分で主体的に遊べるのは、おっしゃるように非常に大事な力かなと思ったりします。

どういうふうに育てていくかといったときの1つのやり方というか、保育園に行った子どもたちは、本当にちゃんと楽しく遊んでいるなと思ったりはしますので、そういうところがこういうところから出てきているのだなというのは正直わかりました。

○八下田委員 小金井保育園の八下田です。一人一人を大切に保育の実践からで、意見ですが、一人一人を大切に以上、これは全て先生たちで相談をしましたという部分が入って、そこがすごくいいなと思ったのですが、

食事の時間が不安で泣いてしまう子どもがいたという話では、担任間で相談して、こういうふうに動けば食べられたというのがあったし、噛みついてしまう子には、担任間で相談して、スキンシップをとって、それをお家の人に伝えたというのが書いてあったので、一人一人を大切に以上、担任間できちんとコミュニケーションがとれて、考えてやっているのが、すごくどの事例からもわかって、それもすごく大事なところだなと感じました。

同じ保育者からお弁当持って行くよという事例の中で、同じ保育者と遊びを共有したいと思うようになりますというのあって、その保育者がお家からの様子を聞いて、動

物園へ行こうとか、お弁当持って行こうというのを聞いて、その子が想像して、その保育者との信頼関係を築いていくところもすごくいいなと思いました。

これは、全て入れ替わりの職員ではだめですよという話に繋がりますが、担任間で相談して、この子には噛みつき癖があるからこういうふうにしてとか、食事の時間泣いてしまうからこういうふうにしてとか相談し合えるのは、パートさんではそこまでの責任もないし、責任者である正規職員という話ですが、職員が話し合っているからこういう事例ができていくのだなとすごく感じました。

これがここの文章になるということは、これを経験した先生たちが、例えば園内の会議で報告して園長先生まで話が上がって、それでここの文章になっているのだなと思いました。

担任間でうやむやにしないというか、きちんと見て、それを園内で共有して、5園で共有しているということができるとは、小金井の保育はすばらしいなということですが、文章で書けばそういうことがあるので一人一人大事にしているなということですが、その裏にある担任間の、先生たちの連携もすばらしいなと思って拝見しました。以上です。

○三橋委員長　ほかにどうですか。

○本多委員　くりのみの本多です。事例2とか、まるでうちのことかなという感じで聞いていましたが、子ども一人一人の気持ちに寄り添いと書いてありますが、多分、これがすごく保育にとって大事なことではないかなと思っていて、

意外と親は、子どもの気持ちに寄り添っていけないというか、本当だったら、こういうふうには部屋に入らなかったりとかいうことがあったら、親だったらそれを入らせるようにするのがしつけと考えがちだと思いますが、

こうやって気持ちに寄り添って、根気よく続けていくことはすごく実際やっていくのは大変なことだと思いますし、そういうふうになれるようになっていくのは、すごく経験として積んでいかなければいけないことだと思います。

小金井の保育園は、そういうふうにはやっていってくださっていると感じますし、そこができるできないのがプロなのかなと感じます。

以前、保育士、共感ノートといったことですごく骨が折れる仕事だと聞いたことがあって、それができないと保育園で園児を虐待してしまったりとかいった事例にも繋がっていくのかなと思いますし、

これはやっぱり、学校を出たからすぐできるとかいったものではないので、長く経験を積んでいってできるようになるのかなと思います。

実際、子どもを育ててみると共感するのがすごく実際は難しい、骨の折れることだと思うので、そこができるできないというのがプロと素人というか、親との違いなのかなと考えて、すごく感じます。

そういった面で、寄り添っていこうという保育をしていただいているのは、小金井保育園はいいなと思います。

○川村委員長      ありがとうございます。それではほかにはないようですか。

それでは、(4)保育の質についてを終了したいと思います。

次に(5)アンケート調査についてを議題といたします。資料の48ページですね。

○鈴木委員      保育課長です。それでは、平成26年度公立保育園の運営に関するアンケート調査の集計について、簡単にご説明します。

1ページは、調査の概要です。調査世帯につきましては、市内の公立保育園全世帯を対象としています。回答状況については表にあるとおり、世帯数と提出数、回収率という形で表記しています。

全体で77.32%という非常に高い回収率であったと見ています。それから、調査期間は9月1日から9月10日までとしていますが、遅れて提出があった回答がありましたが、それも加えているところです。それから、調査につきましては無記名の調査という形でやっております。

めくっていただきまして、すみません、ページをふっていませんが、2.調査の集計5園全体。今回、お配りしている資料については、5園全体の集計について報告をさせていただいております。

設問1につきましては、「現状の保育内容に満足していますか」ということで、現状の満足度が全体でこのような状況になっているという形であります。

それから2番目、保育ニーズにつきましては、「保育や保育園関係等で市に要望したいこと」ということで、5つ以内で選択でき、優先順位1位から5位までをふっているところです。

これも全体の集計になりまして、結果としましては右側のページにいきまして、カラーではないのでちょっと見にくい部分もありますが、それぞれの順位ごとの積み重ねが出ているところです。

これを見ますと、保育士体制、待機児童解消が高い数値になっています。この表の中の一番下にUその他とありますが、別紙の2になりまして、うしろに別紙としてそれぞれの部分について記載をしているところです。

設問2の(1)で1位とした理由としましては、この別紙3で記載をしているところです。

訂正していただきたいのですが、別紙3がございまして、設問2(2)1位とした理由としておりますが、1位以外のものも入ってきますので、要望した理由と読みかえていただきたいと思います。公開する資料につきましては、訂正をして、公開したいと考えています。

○三橋委員長 どこですか。

○鈴木委員 すみません、別紙は全部まとめて綴じてしまっているのので分かりにくいのですが、別紙1が1から10ページまで。連番ではありません。

○川村委員長 申しわけないです。連番ではないのでちょっと見にくいですね。

○鈴木委員 1部ごとに枚綴じていればよかったのですが、すみません、まとめて綴じてしまったため分かりにくいのですが、別紙3の1ページにつきましては、設問2(2)1位とした理由というのを、要望した理由と読みかえていただきたいと思います。

それから、設問2(3)につきましては「保育ニーズを実現するにあたり、自分の考えに近いもの」の表です。その他の部分の記述につきましては、別紙の4にまとめてあります。

設問3保育内容について、「自分の考えに最も近いもの」は表のとおりで、その他についても別紙の5でまとめて記載をさせていただきます。

保育の質につきましては、これは複数回答可としておりますので、1人で全部○、12を例えば除いて全部○をつける方もいらっしゃいますし、1つだけつける方もいますが、選択した部分について集計しているのがこの表になります。

その他の部分につきましても別紙6で記載をしています。

設問4の意見・要望につきましても別紙7で記載をしてあります。

延長保育の設問5ですが、20時まで延長することについて考えの近いものにつきましてはこの表のとおりとなっております。

それから、利用予定につきましても表を参照していただきたいと思います。

それから、設問の6の「市に対しての意見・要望」につきましては別紙の8に記載し

ております。

それから、設問7につきましては、すみません、表に誤植がございまして訂正していただきたいのですが、すみません、境涯とありますがこちら協議です。公開する資料につきましては、修正して載せたいと思いますが、その中③協議内容と訂正をいただきたいと思います。

それから最後、「公立保育園運営協議会に対する意見・要望」として別紙の9が添付してございます。説明については以上です。

○三橋委員長　このアンケートを元に五園連で意見をまとめて、順位順にですね。毎年設問2をベースにして、五園連ではアンケートを実施しており、それをもとに意見・要望をつくっているわけです。

きょうはちょっと時間の関係もあって、元々、9月の協議会時点で意見・要望書ができていた予定ではなかったもので、きょうはアンケートにフォーカスしたいと思います。

アンケート中身ですが、まず回収率は、鈴木さんから話があったとおり、7割を超えて、大勢ご協力いただいたなと思っています。

ここの満足度も9割以上の方が満足、概ね満足という結果で、この設問に限らないですが、ここでのコメントの1つ1つは非常に大事で、時間が皆さん忙しい中でこれだけのコメントを書いていたというところは、毎年ありがたいなと思っていて、1つ1つしっかりと読んで、協議の中で生かしていきたいと思っている次第です。

折りにふれて、1つ1つの意見、こういった意見があったというところは意見・要望をするにあたり、どんどん活用していきたいと思っていますので、僕もまだ細かく見れていないところがありますが、しっかりと読んでいきたいと思っています。

満足度のところだけでも相当な数をいただいている、設問2については、こちらも次回詳しくできれば、時間があればと思いますが、今年の特徴的なところというと、保育士体制の話の問題が一番だったというところです。

今まで待機児童ですとか、病児病後保育ですとか、あるいはその前は災害対策などありますが、今年度に関しては、時節柄というか、今問題になっていますのでこういうところが1位になっています。

待機児童などがその次に来るということで、病後児保育についても3番、4番ということで、このあたりのところが上位になっています。

この後の5番以下のところもありますが、皆さん1つ1つ切実な要望がありますので、



それについてもこの後、1つ1つ検討していく題材にしていきたいと思っている次第です。

特徴的なところはそんなところですが、次回、ここの2番に関しては次回に送りたいかなと思います。

3番ですが、ここのところもなかなか設問的に難しいなど、作りながら思っていたところですが、それでも今回、あえて単に要望するだけではなくて、要望の裏にあるところですね。思いなり、どういった考えなのかというところを設問で聞いています。

普通であれば、予算や人をつけて直ちに実現してほしいという意見だと思いますし、ここが多いかなというところですが、一方で、保育料の値上げがあっても早急に実現してほしいという意見ですとか、予算や人が現状のままで手当不要であれば対応してほしいというところも一定の支持があります。

特に保育料の値上げについても、コメントとか見ていると、多少傾斜配分をきつくしても構わないとかいった意見も複数あったと思いますので、理由がしっかりしていればこのような話も出てくるのかなと思っているところです。

保育内容に関しても、自分の考えに最も近いものという問いに対して、より情操教育を重視したり、あるいは現状のままというところの回答が多く、小金井保育の特徴的なところが、あるいは今の保育の課題的なところも、それが一定理解されているのだなと思いました。

一方で、学校教育、読み書きをやってほしいとか、あるいは運動会、競技的なこともやってほしいという声も普段から聞いたりしますが、それがどの程度というところについては、今回この調査の中で2割弱ぐらいいらっしゃるということもわかりました。

保育の質については、先ほどからお話にあるような内容についてまではまだまだなかなか設問にできてはいませんが、1人当たりの園児数ですとか、保育士のスキルですとか、あるいは看護師の存在、栄養士の存在なども、かなり回答数が多いところに来ているところです。

保育の質について考えるときの1つのきっかけになればと思っています。

延長保育の20時までについて、協議会の中でも議論になった部分ですが、ここの中で考え方に近いものというところで、複数回答可ですが、③番、予算や人が手当できるものであれば賛成という意見、ないしは、生活のため、保護者が働くためには、これはやむを得ないというか、こういったところでの賛成というところが若干多数意見でし

た。

一方で、この運営協議会の中でも意見がありましたし、コメント欄でも書かれた方もいますが、子どものために実施すべきでないという意見も、3割近い数字があるという結果になっています。

ファミサポ等か公立保育園か、4番、5番ですが、子どものためもあり、公立保育園で実施すべきというほうは多いという結果になっている次第です。

利用頻度に関しても、公立保育園にも入っている父母としては、利用する予定がないという⑤番が過半数で223人。一方で、毎日利用する、ないしは週2～3日利用する、月数回利用するを合わせると64人という結果で、2割強の方が1、2、3に入ってくる。年に数回になってくると、④番の57人も加わるという結果です。

設問6に市に対する意見・要望に関しては、厳しい意見も含めていろいろ市に対する意見・要望がありました。これについても、また1個1個ここで言う時間はありませんが、今後出していきたいと思います。

次の設問は、僕は意外というか若干驚きもありましたが、運営協議会については、9割の父母の方が存在自体を知っている。ただ一方で、協議の中身について知った方は3割弱で、協議項目ぐらいは知っている方まで入れると、それでも半分弱となります。そういう観点で言うと、やはり我々が議論する中身についてのもうちょっとわかりやすく、コンパクトにして情報をどんどん伝えていくところが大事かなと改めて思った次第です。

こういう結果なので、これを市民一般の方に理解を求めていくかが次の課題かなと思ったりはします。こんな感じですが、委員の方でこのところについては意見として、コメントしておきたいとか、コメントを見ていてこのところはポイントとか、この場で話をしたいというところがあれば、ぜひ言っていただきたいと思います。

- 福澤委員 訂正をお願いしたいのですが、5番の保育園の世帯数ですが、92世帯です。
- 三橋委員長 9月段階で、
- 福澤委員 そうです。
- 三橋委員長 父母のほうもデータアップされていましたが、こういう形でまとまっているのをいきなり見て、すぐにぱっとコメントできないかもしれないですが。
- 八下田委員 15ページのQの、部分ですが。
- 川村委員長 アルファベットのQですね。

○八下田委員 15ページのQの3人兄弟で始まっているところがありますが、3人兄弟で5歳児、2歳児、0歳児で、上2人は別園、下の子は今年入所できず保育ママに預かっていただいています。3カ所別の保育施設を朝夕回って預けることは考えていただきたいですということですが、

これは多分私知っている話で、これはひどい市だなという話で、多分5歳と2歳は公立園2つ別のところで、0歳が保育ママさんと書いてありますが、最後の保育ママさんのところでお茶飲んでいかないと家へ帰れないみたいな、そういうしかも朝晩で、お勤めが多分近くだったと思いますが、私の知っている人なら。

本当にかわいそうだなというか、毎日のことで朝晩、こういうのはどうにかならないかなと、ここで話し合うことではないかもしれませんが、こういうひどい状況の人がいるのだなというのを、もうちょっと真剣に考えてほしいなと思っています。以上です。

○三橋委員長 待機児童の話は、どちらかというところ、公立保育園の父母というのは既に入所しているからみたいなどころもありますが、実際のところは、兄弟がいて泣き別れになってしまったりとか、あるいは2人目を産みたいが待機児童の話があって、産めないという意見もかなり多いです、

今年であれば、各園に定員を2名ずつ増やしたりとか、あるいは過去ホールの一部を潰して保育室のスペースにしたりとかあります。知り合いで困っている人も多く、2番目という高い要望になっているところと思います。

○川村委員長 それでは、時間の関係もありますが、資料50については次回でよろしいですか。それではアンケート調査につきましては終了させていただきます。

次に(6)の当面の課題についてというところで、職員の募集・配置状況、資料の49について説明させていただきます。

○諏訪委員 保育課の諏訪です。私からは資料の49について説明させていただきます。

今回は、前回8月27日にお出した配置、現在の不足状況ということで出させていただきました。この数値を見ていただいても芳しくない状況が一目瞭然でわかるところですが、少しずつ改善しているところや、また新しい実態によって生じているところ等がありますので、今後も職員課共々、努力していきたいとは考えております。以上です。

○三橋委員長 状況はなかなか変わらないというか。

○諏訪委員 少しずつ動きはあつたりもしますが、ただ新しく問い合わせが来るかというところでもなくて、やはり実態的には少しずつ反響が大きいので、継続してやっていきたいと

思っております。

○三橋委員長 現場はどうですか。厳しい状況の中でやりくりしていると思いますが、課題感とかこういうところ、ローテーションの中で何とかしているということだと思いますが、大丈夫ですか。

○前島委員 大丈夫ではないですが、くりのみ保育園の前島です。現状、くりのみ保育園は今まで欠員できたのが、埋まったことは埋まったのですが、加配のお子さんが、人の配置が必要なお子さんがいて、もう1人必要になってきているので、現状が変わってきている状況、保育園の中にいるので、探しています。

○三橋委員長 さくらも今回ふえたりしているのは。

○福野委員長 産休に入っています。

○三橋委員長 わかたけもそういう話ですか。

○杉山委員 わかたけは、前、配慮が必要なお子さんに付いていた方が退職されたので、その分が埋まっていない状態です。

○三橋委員長 それをカバーするために、残業なりなんなりという形で、正規の方で対応しているとか。

○杉山委員 日中なので残業では追いつかないので、幼児クラスで3クラスで体制を取り合って、ここに穴埋めに入るといふことしかできませんので、そういう形で今は対応しています。

○川村委員長 それでは、よろしいでしょうか。鋭意努力をさせていただきたいと思います。それでは、以上で(6)の当面の課題についてを終了いたします。

次に(8)次回の日程の確認を議題といたします。

若干休憩をいたします。

休 憩

再 開

○川村委員長 それでは、再開いたします。

次回の日程は11月5日、午後7時半からと決定いたします。場所につきましては追ってご通知を申し上げます。

それでは、以上で本日の日程は全て終了いたしました。大変お疲れさまでございました。

閉 会

